

令和4年度 和泉葛城山ブナ林事業計画

1	計画の概要	1
2	コアゾーンにおける調査	1
3	コアゾーン及びバッファゾーンで実施する調査・保全管理	1
4	バッファゾーン等における調査及び保護・増殖活動	2
5	管理体制の確立・適正な利活用の誘導	3

令和4年3月

公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会

1 計画の概要

令和 4 (2022) 年度は、令和 2 (2020) 年度に策定した「和泉葛城山ブナ林 10 ヶ年計画」に基づき、コアゾーン、バッファゾーンで各種調査を実施するとともに、一般参加ハイキングの開催、ナラ枯れへの対応を行う。

また、倒木年輪調査の追加、植栽ブナ調査の追加変更などを盛り込んだ計画とした。

2 コアゾーンにおける調査

(1) 天然下種更新モニタリング

令和 3 年 (2021) 年の開花・結実が少なかったことから、今年度における発芽する可能性は低いですが、令和 2 (2020) 年の結実種子による実生が生育している可能性があるため、確認に努め、確認された場合はその生育状況をモニタリングする。

(2) 花芽・結実調査

種子生産の豊凶周期を把握するため、3 月～4 月にかけて花芽調査、11 月に結実調査（殻斗調査）を実施する。

(3) 花がら・種子調査

種子の生産、種子病原菌の状況、散布の状況および種子健全度の経年変化を把握するためのトラップ布による種子採取調査を行う。

今年度から、種子生産の豊凶予測などの情報を得るため、開花後の花がら（落下した雄花序）の採取を行うため、花がらの落下が始まる前（4 月中）にトラップを設置する。

調査地点は過年度と同じくコアゾーン 4 プロットとし、各プロットにつきトラップを 5 基設置する。

採取した健全な種子は苗を作るなど有効活用を図る。

(4) 倒木年輪調査

平成 29 (2017) 年に伐採されたブナ大木の年輪解析から、開花結実年、気象との関係、伐採の履歴等の情報が得られた。これらの情報を補完するとともに、新たな知見を得ることを目的として、倒木の材幹標本（幹の輪切り円盤）を切り出し、解析を行う。解析はきしわだ自然資料館が行う。

対象とする倒木（1 本）は、平成 30 (2018) 年の台風 21 号によって倒れたもので、林内（岸和田市側）に残存放置されており、腐朽が進む前に標本を得る必要があるため、今年度の事業に盛り込むものとした。

標本は博物館などへの提供を考慮し、10 枚程度切断することを予定している。

3 コアゾーン及びバッファゾーンで実施する調査・保全管理

(1) 生育環境調査

ブナ林の南限に近いとされる和泉葛城山のブナ林では、夏場の気温上昇がブナの生態に

影響を与える可能性が考えられるため、過年度からの通年測定を継続して、長期間の森林生育環境データを取得し、分析する。

調査地点は令和3（2021）年度と同じ、コアゾーン2カ所、バッファゾーン7カ所とする。

（2）哺乳類モニタリング

気象観測器の支持柱等に自動撮影カメラを設置し、哺乳類のモニタリング調査を行う。調査地点は過年度と同じ、コアゾーン2カ所、バッファゾーン7カ所とする。

（3）ナラ枯れ対応

①枯死木への対応：黒ビニールシート巻き

令和3（2021）年度は歩道沿いを中心としたナラ枯れ予防の薬剤注入と、枯死木への成虫脱出防止粘着シート巻きを実施し、大量の枯死には至っていないが、11本の枯死木が確認された。

これらの枯死木から成虫が脱出し被害が広がることを抑制するため、黒ビニールシート巻きを行う。5月中に施工して、10月頃撤去する。

②生木への対応：ナラ枯れ防止薬剤注入

昨年度ナラ枯れ予防の薬剤注入を実施した個体は今年度も効果が持続するため（薬の効果は2年間）、昨年度実施していないバッファゾーンの登山道沿いの大木等を選定して薬剤を注入する。早春に状況確認調査を実施する。

4 バッファゾーン等における調査及び保護・増殖活動

（1）育苗・移植

塔原苗畑における令和2（2020）年結実種子の発芽はなかったため育苗を終了する。

同じく塔原苗畑において平成26（2014）年の結実種子から育てた幼木（6本）を育成中。

（2）ブナ若木の育成

バッファゾーン植栽地において、植栽したブナの生育環境を維持・改善するため、枝払い、刈払い、清掃などを行う。

（3）森林保全整備

立木の健全な育成による森林被害の未然防止、林内照度の上昇による公益的機能の増進、ブナとの混交林への移行を目的に、森林保全整備を行う。

（4）植栽ブナ調査

令和3年度は、前中委員の提案により、比較的過年度調査の記録が残っている区画を抽出し、サンプル的な生育状況調査を優先するものとした。先行的に令和3年度には4区画を実施しており、今年度は2区画で実施する。

(5) 植栽ブナ、天然ブナ全数調査に向けた準備

植栽ブナ、天然ブナの全数調査の実施に向け、個体番号表示の保全を実施する。
また、ブナ位置図のデータ更新を行う。

(6) ドローン活用調査

公立大学法人大阪大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 緑地環境科学専攻 准教授
中村彰宏准教授が行う以下の調査研究の円滑な実施に向け支援を行う。

3月下旬～4月下旬、バッファゾーン全域において、地上からの調査（地上から混芽または開花状況を確認）とドローンによる調査（10～150m 上空から開花個体およびブナ林を撮影）を行う。

5 管理体制の確立・適正な利活用の誘導

(1) 保護増殖検討委員会とワーキンググループ、関係者協議

令和4年度は、1回の保護増殖検討委員会と、各種調査及び保護・増殖活動の進捗および成果の確認を行うため、3回程度のワーキンググループの開催を予定する。

(2) 既存資料のアーカイブ化

令和3年度にスキャニングを行ったPDFデータを整理し、資料リストと主な資料をトラスト協会ホームページに掲載する。

また、今後の主な調査研究・活動の成果、事業計画・報告などについても適宜掲載していく。

(3) ハイキングの開催

市民を対象としたハイキングを開催する。

(4) 利用ルールの検討と普及啓発

①巡回の実施

地元町会・自治会と連携し、3人の巡視員により、毎月1回の巡回を実施する。

②看板の整備

看板、案内板、解説板等の現況調査を実施し、損傷やいたずら書きが目立つものを回収・処分する。また、利用者の安全と適正な利活用、普及啓発を目的としたサインや解説板を計画し、来年度以降の設置に向けた準備を行う。

以上